

神野公園

7つの体験 プロジェクト

KONO PARK 7 EXPERIENCE PROJECT

資料 2

コンセプトについて

佐賀市情報発信強化アドバイザー

2023.2.8 博報堂ケトル 井手康喬



井手 康喬 YASUTAKA IDE

1980年生まれ。2004年博報堂入社、ストラテジックプランナー経験を経て、08年にコピーライターへ転身。2020年から博報堂ケトル所属。コピーワーク・コンセプトワークの技術を軸に、中期のブランド戦略、CMなどのマス広告設計、PR/プロモ/デジタル/店頭など、課題解決のために手口を問わない統合ブランングスタイル。

【受賞歴】 Cannes Lionsシルバー/ブロンズ、AdFestグランプリ/ゴールド、SPIKESシルバー、ACGシルバー、TCC新人賞・TCC賞ファイナリスト、PRアワードグランプリ受賞、毎日広告デザイン賞最優秀賞、読売広告大賞優秀賞、朝日広告賞準部門賞、広告電通賞金賞、グッドデザイン賞ベスト100、キャラクター賞選賞、AD STARS釜山国際広告祭ブロンズ、TIAA銀賞、ユーキャン新語・流行語大賞トップ10入賞、など



神野公園

7つの体験

プロジェクト

なぜ【体験】を重視するのか？



プロジェクトに関わるみなさんが
「市民発想」になる、ということ

神野公園

7つの体験

プロジェクト

なぜ【体験】を重視するのか？



プロジェクトに関わるみなさんが
「市民発想」になる、ということ



さらに言えば

「つくって終わり、にしない」

という課題を解決するために

非常に重要な考え方

一部の作り手発想だけで、
作りやすさを重視すると…



(作ったはいいけど、
市民からあまり必要とされない…)

一部の作り手発想だけで、
作りやすさを重視するより



市民発想で、
市民の体験価値を高めるために
すべてを考える



一部の作り手発想だけで、
作りやすさを重視するより



市民発想で、
市民の体験価値を高めるために
すべてを考える



- 「いい体験ができる」
- また来てくれる（リピート）
- 他者に伝えてくれる（PR／話題化）
- 来園者が広がっていく（経済効果）
- 常に人でのぎわう（経営する意識へ）
- ひとりで「良いスパイラル」がはじまる

新しい神野公園でできる「体験価値」を上げることが、
すべてがうまくいく「力点」になる。

< 7つの体験 >

1. 自然・環境
2. 遊び
3. 食
4. 運動・健康
5. 教育
6. 文化
7. 季節

なぜこの7つか？

公園

できるだけ多くの人が、
できるだけ多様な
楽しみ方をできることが
重要だと考えました



7つの体験を用意する

= 7種類の「来園動機」を用意し、

= 7種類の「ターゲット」をつくる

ということ

New

遊び

神野公園

7つのゾーンをつくる、

という物理的なことではなく

1つの施設に7つの狙いをもたせる

ということ

自然・環境

緑、水、風など豊かな自然環境や
未来へ向けたサステナブルな提案を
楽しめる体験



季節

文化

遊び

New
神野公園

教育

食

運動・健康



遊び

子ども遊園地や
豊かな自然環境などで
遊びたい・遊ばせたい
に応える体験



食

解放的な自然の中で
おいしいものや話題の
ものを食べて楽しむ体験



運動・健康

広い空間や施設を使い
心身の健やかさを育み
スポーツを楽しむ体験

季節

自然・環境

文化

遊び

New
神野公園

食

運動・健康

教育

自然豊かな環境で
子どもたちの知的好奇心に
応え満たす体験



季節

自然・環境

文化



公の広場として人が集い
あらゆる文化やカルチャーの
交流を楽しむ体験

New
神野公園

遊び

教育

食

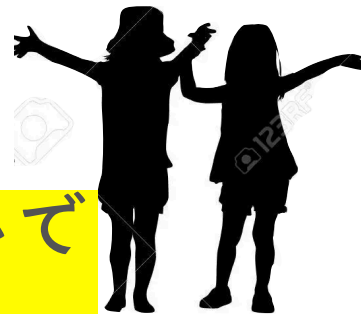
運動・健康



季節

四季それぞれそのときだけの
自然やイベントを楽しむ体験





様々な人の
様々な楽しみや思いで
にぎわう公園へ

この「7つ」は暫定のもの



プロジェクトを進めていくうちに柔軟に
内容を変えたり増減があってもよいと考えています

体験価値を想像し

具体的な施設の設計につなげていく方法

について



カスタマージャーニー作文

7種類の人、7つの象徴的な体験を
その人の視点で作文・言語化し、
ゴールイメージ体験を全員で共有する

たとえば、 食



「週末ひま?新しくなった神野公園に行ってみない?」とA子から連絡があった。

なんでも、有名なシェフと佐賀市が共同開発した、

「ワンハンド・イタリアン」なんていうのをコンセプトにしたテイクアウトのお店があるらしい。

大学卒業以来、ひさしぶりに気のおけない友達会う土曜日。

神野公園についたら、あれ、ずいぶん変わってる。

大きな芝生ゾーンの手前に、フードトラックやフードコンテナが並んでる。

なるほど、ここで好きなものをテイクアウトして、公園でピクニック、てことか。

気が利いてる…!急にどうした佐賀市?

「レジャーシート、持ってきておいてよかったわー」A子がドヤ顔で言う。

わたしは、ピザの閉じたようなやつ(カルツォーネって言うらしい)にした。片手で食べやすい。

A子はシシリアンライスと季節限定クラフトレモネード。飲み物もイケてる。あ、またドヤ顔。

土曜の昼下がりに、天気もよくて、ピクニックするには最高の天気。

広場につくと、リニューアルしたばかりだから結構にぎわっている。

子どもたちが元気に走り回ってる。お年寄りもお散歩してる。

ぱっと見渡した限り、なんだか新しい建物や施設がチラ見えして気になりすぎるけど…

なにあの池?あの殿様のお屋敷は一体?遊園地も新しい?

いったん腰を落ち着けてごはんをたべよう。

あ、気づけばそこら中にいろんな形のベンチや椅子が置いてある。ここでくつろげるってことか。

A子、レジャーシートなくても大丈夫だったよ。

今までの神野公園とは一味ちがう体験。大満足の日だった。

こんどは平日、ウォーキングも兼ねてこっそりひとりで来てみようかな。



- ・フードトラックやコンテナが並ぶ
- ・有名なシェフとの共同開発メニュー
- ・定期的に入れ替わりニュースを生む
- ・様々な椅子やベンチを配置
- ・休日のピクニックや散歩を想定

と、箇条書きでまとめるのも別途必要ですが、
その人の視点で、その人のモノログで文章にすることで、
市民発想の体験シミュレーションを
プロジェクトの関係者で
ゴールイメージ体験として共有できるのが利点です。

ほかに、

「常にニュースを生み出すアップデート発想」

「つくって終わりにしない経営の意識」

「隔林亭・鍋島家別邸・子ども遊園地などの具体的な活用」

「施設ネーミングの検討」

「一枚絵の記号になるキラースケープの設計」

など具体的な課題はまだいくつかありますが、

この「市民発想としての7つの体験の考え方」は

プロジェクトや施設全体のベースになると考えています。

以上

ありがとうございました。